



木工クラフトでマガジンラック完成

課長補佐のあいさつ
の後、緑の普及係長が講師となり、学校で取り組んでいる森林環境教育や森林環境教育の課題・問題点、本日学びたいことなどを「自己紹介カード」に記入していただき、その後、局署で行っている

午後からは九州森林インストラクター会の安樂行雄さん、荒木高弘さんを講師に迎え、ネイチャーゲームと樹木観察を行いました。ネイチャーゲームは生き物のカードを背中に貼り付け、自分がどんな生き物になっているのかを他の人のヒントから当てる「私は誰でしょう」と自然の中に紛れ込んだ人工物を見つけ、その数を当てる「カモフラージュ」を実施。樹木観察では樹木の特徴や見分け方などの説明に熱心に聞き入っておられ、今

最後は生徒になりきって勉強されていました。最後の森林環境教育についての意見交換では、児童一人一人が校内にある木に名前をつけ、その木の一年間の変化を観察すると言った「自分の木」や専門家を招いて学校内の樹木を調べ、取組などが紹介され、他校の先生方にとっても参考になったようでした。また、「環境教育」といっても具体的なイメージが湧かなかつたため、今日の塾はとて参考になった。「時間を忘れて熱中した。」「とても楽しかった」などの感想が出され、「森の塾」は普段では経験することのできない生きた学習の場となったようです
(担当Ⅱ指導普及課)

小学校教諭を対象に「森の塾」開講 6校の小学校から10人の先生方が参加

8月24日、監物台樹木園において熊本市内の小学校教諭を対象に参加者を募り、森林・林業について学んでいただき、学校

での森林環境教育に活かしていただくことを目的とした「森の塾」を開講しました。13回目となる今回の塾には6

校の小学校から10人の先生方の参加がありました。木工クラフトを行いました。日ごろ手にしているチョークを鋸や金槌に持ち替え、慣れない手つきで挑戦。悪戦苦闘しながらも個性的なマガジンラックが完成。出来上がった作品を手に皆さんは満足げな表情で写真に収まっていました。

次に企画係長が講師となり、木工クラフトを行いました。日ごろ手にしているチョークを鋸や金槌に持ち替え、慣れない手つきで挑戦。悪戦苦闘しながらも個性的なマガジンラックが完成。出来上がった作品を手に皆さんは満足げな表情で写真に収まっていました。



身体を使って一本の木に挑戦する参加者

主事事項
21年度
な取組

日本林業の再生
安定供給システム販売の推進

趣旨

九州国有林では、「輸入木材に対して競争力の持てる簡素で合理的な生産・流通・加工システムづくり」を目指し、間伐材を有効に活用する大規模需要先などへ定時・定量・定価格で丸太を供給する安定供給システム販売に取り組んでいます。

これまでの取り組み

これまで、販売しにくかった曲がり材を定期的に販売しつつ、生産・流通段階での徹底したコストダウンを進めてきました。安定供給システムの販売量は、平成16年度から取り組みを始め、

平成20年度まで、21千立方材、131千立方材、146千立方材、155千立方材、193千立方材と着実に増加してきました。

また、一昨年からは、木材業界関係者や販売相手方企業の参加を得て、生産・流通・加工・販売に至る各段階でのコストダウンや付加価値向上、新規需要開拓への取り組みについての実績報告会を開きました。

このような国有林における成果により、民有林での安定供給の取り組みを喚起し、新たな安定供給ルートが構築されるなど、大きな波及効果が生まれています。

平成21年度の取り組み

①システム販売の推進

スギについては、182千立方材の販売を計画しており、間断のない生産に努めることで大型工場や地域製材工場への質の高い安定供給を図ります。ヒノキについても、36千立方材のシステム販売に取り組むことで、販売しにくかったB材を合板や集成材の原材料として需要拡大



安定供給される国有林材＝伊万里木材市場

に取り組めます。

②価格データの公表と実績報告会
生産量が増大していく中で、価格データをオープンにすることにより、民有林を含めた価格の安定化に努めます。

また、新たな需要開発による企画提案など具体的な実績報告会を開催して、各段階での一層のコストダウンへの取り組みや民有林への普及を促します。

(担当＝販売課)



輪尺の使用方法を教わる生徒＝長崎

中学2年生3日間の体験学習

【長崎森林管理署】対馬市立豆酸中学校の要請を受け、中学2年生1人を受け入れ、3日間の体験学習を行いました。生徒は、豆酸森林事務所森林官らと

講師に、国有林の役割や仕事、ツシヤママネコ生態調査などについて学んだり、コンパス測量、保育間伐などを体験しました。生徒からは「体験で学んだことを忘れず、これからも勉強や部活のキャプテンとして頑張ります」とのお礼の手紙をいただきました。



登山者に高山植物の保護等呼びかけ＝大分西部

高山植物の保護等呼びかけ

【大分西部森林管理署】くじゅう

う地区高山植物保護対策協議会では、入林者の多い夏季に高山植物の盗採防止などの保護啓発を目的とした合同パトロールを行いました。同協議会の各会員から10人が参加。牧ノ戸峠から黒岩山、泉水ルートや涌蓋山ルートにおいて、登山者に高山植物の保護、ゴミの持ち帰りなどを

呼び掛けるとともに、しおりを配布しての、啓発活動を行いました。



既設のネットにスカート設置＝宮崎北部

シカ被害防止ネットの再補強

【宮崎北部森林管理署】宮崎

県椎葉村の三方界国有林内において、当署職員のほか、霧立山地の自然環境を守る会会員など20人のボランティア参加の下、シカ被害防止ネットの補強作業やネットに倒れ掛かった枯損木の除去作業を行いました。当地は今年6月に補強作業を実施した個所ですが、さらにシカがネット内に侵入することのないよう、既設のネットにスカートを設置した。参加者は、セイヤカスズミシノウなどの希少種の保護を目的に急斜面の中、作業に汗していました。



熊本南部森林管理署

多良木森林事務所

首席森林官 吉田弘幸

熊本南部森林管理署管内にあります代表的な山といえます。市房山、国見岳、鳥帽子岳、白鳥山など数々の山が九州中央山地に点在しています。今回、私の管轄する区域の白髪岳を紹介いたします。

白髪岳は標高1417mで市房山以南では最高峰の山です。希少動植物も多く、鳥類ではミソゴイ、アカショウビン、クマタカ、アオバズクなどが棲息しています。また、植物類はブナをはじめ、バイケイソウ、ヤマアジサイなどが分布しています。



白髪岳山頂

白髪岳(1417m) ：すばらしい自然を後世へ：

近年、山頂付近にあった樹木などが食害(シカ)の被害を受け、特に、クマササにおいては皆無の状態となったため、シカネットを平成17年度から設置し、既存のブナなどの樹木の保護とクマササなどの植物を回復させる取り組みを行っています。シカネットを設置したことでクマササが地表に顔をだし、樹木への被害も減少してきており効果が見られてきています。皮肉なもので山頂付近はひと昔はクマササに覆われていたため周囲を見渡せないくらいであったのが今は360度見晴らしの良い所になっていて、天気の良い日は、南に市房山、西には霧島連山などが一望でき眺めも最高に良いところになっています。一年を通して登山愛好者が訪れる白髪岳ですので、今後ますますすばらしい自然を後世に残すため、植生の保護などに精一杯取り組みたいと考えています。



食害防止・樹木の保護のためシカネット設置

木々の枝につく霧水が麓から見ると白髪のように見えることから白髪岳となつてと言われています。最後に、人吉・球磨は市房山



地表に顔をだしたクマササ

を始め自然豊かな土地柄です。特に人吉市にあります青井阿蘇神社は国宝に指定され、また、蒸気機関車(SL)も熊本市から運行しています。一度、白髪岳登山に訪れ、その寄り道として人吉・球磨の自然・歴史文化に触れて下さい。

「2009 森林・林業・環境機械 展示実演会」の開催にあたって

「未来へと 夢をつないで 育てる緑」を大会テーマとして、10月4日に長崎県雲仙市百花台公園で開かれる第33回全国育樹祭の記念行事として、

「2009 森林・林業・環境機械展示実演会」が4日～5日まで島原市



「未来へと 夢をつないで 育てる緑」を大会テーマとして、10月4日に長崎県雲仙市百花台公園で開かれる第33回全国育樹祭の記念行事として、

安徳海岸埋立地において開かれます。

この展示実演会は、(社)林業機械化協会との共催で国内林業機械メーカーなど47社が集結し高性能林業機械をはじめ、最新の林業機械、チップパー、シュレッタなど森林バイオマスの有効活用や環境保全に資する約450機種を展示し実演会を行います。

さらに「林業機械の安全で正しい使い方」などの講習会を通して、最新の機械化や製品・技術情報を発信し、機械類の普及促進や現場の機械化意欲を喚起するとともに、魅力あふれる作業システムを提案します。

平成の雲仙普賢岳の大噴火災害を乗り越えた島原半島は、8月下旬にユネスコが支援する地質遺産を活かした自然公園「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認定され、機会展示会場の隣には雲仙岳災害記念館もあり、地元では地域活性化への期待も高まっています。当日は地元島原市・雲仙市・南島原市による物産展示販売も行われ、5日には地元の小・中・高校生が会場を訪れ、教育の場として活用していただくこととしており、多くの皆様のご来場を心からお待ちしています。

長崎県全国育樹祭準備室
前嶋 好孝 さん

松葉かき作業に140人参加

【佐賀森林管理署】夢みるこども基金では、今年15回目を迎える夏のイベントを虹の松原で実施。東京や兵庫など各地から子どもや保護者、基金関係者約90人、更に応援に駆けつけた地元の方、ボランティア団体、唐津南高校の生徒など総勢140人が参加しました。午前中、当署職員が講師となり、森林管理署の仕事や虹の松原の歴史、松原の保全・再生活動が開始したことなどを説明。その後、虹の



松葉かきに汗を流す参加者ら＝佐賀

松原での松葉かき作業に汗を流しました。午後からは、「松林

の中で環境音楽祭」が開かれ、地元の小学生の太鼓、オカリナ演奏。4高合同のブラスバンド演奏など虹の松原に音色が響く一日となりました。

低コスト 研修・現地見学会を実施

【宮崎北部森林管理署】延岡市畑国有林において、低コスト路網の民有林への普及や作業路作設技術の向上、職員や関係事業体の知識の習得を目的に「簡易で崩れにくい作業路研修・現地見学会」を行いました。当日は、東臼杵農林振興局林務課、

延岡市、椎原村など管内の林業関係機関、森林組合などの林業事業体や隣接する大分森林管理署の職員など約70人が参加。当該地で作業路を作設している(有)延岡物産から、作設状況などの説明を受けました。また、オペレータによる作業路作設の実演、既設の表土ブロック積工法による路体や洗越の作設箇所などを見学後、意見交換を行いました。今回、管内の各事業体からもオペレータの参加があり、表土ブロック積工法の作設状況を熱心に見学している姿が見受



作業路作設の実演を見学する参加者＝宮崎北部



小野 富美男 さん

私は農家の長男として旧宇佐郡安心院町に生まれましたが、中学の時父が病気となり農作業が出来なくなつたため、水田の耕作、山の植林や下刈り、炭焼きなど母と共に働きました。母はこのようにな忙しい中にもセイロで蒸した炭酸饅頭やサツマイ

芋など食べさせてくれました。今思えば昔はほんとうに良かったなあとつくづく思います。母には感謝をしています。

高校を出て働くようになりまして、久住山・祖母傾山での遭難者の救助にあつたこともありました。

特に祖母傾山で動けなくなつた女性を背負つ

「美しい日本、美しい郷土の森、川、海を守るために」

て救助をしたのが思い出に残っています。このように山との関わりは小さい時からあつたわけですが、近年新聞・テレビでは、地球温暖化・砂漠化・エコ・太陽光発電・温室効果ガス排出量・

京都議定書・エルニーニョ現象・

低炭素革命・海水温度一度上昇などの記事を目にする時、森林は大気中から二酸化炭素を有機物として固定し、特に森林・木材は大量の炭素を蓄えていること。また、樹木、特にマツ、ヒノキなどの針葉樹林ではフィット

事を見まして即座に応募をいたしました。幸運にも委嘱をして頂き、以来、会議・植林など、さらに、志を同じくする多くの人達との出会いがあり、感謝をしております。

住・祖母傾山・くじゅう高原・飯田高原・耶馬溪・高崎山などの貴重な財産がありますが、これら貴重な財産は私どもが保全・管理をしなければなりません。私も多くは出席できませんが、今は大分県森林づくりボランティアとして森林の保全・管理に努めております。

ンチッドの発散量が多く、免疫力の向上などに効果があることを改めて知った時、森林の整備・保全に関心を抱くようになりました。

先般、鹿児島に旅行に行きましたが、開聞岳の景色の素晴らしさには感動しました。このような素晴らしい景色・自然を私たちは、子供・孫たちに引き継ぐ義務があると思います。我が大分県も先人や森林を守り育てる森林管理署の方々のためまな努力により日田・竹田・

佐伯・国東半島などの森林、久

そんな時、九州森林管理局から「モニターの募集」の新聞記

事

九大生インターンシップ受入

森の塾や公開講座などの指導を体験

8月20日～26日 農林水産省就業体験実習（インターンシップ）の受入を指導普及課で行いました。今年度は、九州大学大学院修士課程1年の中間康介さんが、「森林管理局の実務を経験することで、職業選択の方向性を定めたい」との理由により森林管理局の職場を体験しました。

発重点課題「の現地調査など」に同行し、職場体験実習をしました。

「実践・公開講座」、「森の塾」では、実習生は参加者のサポートやクラフト作りなどを体験。慣れない体験で大変そうな様子でした。

この間の業務内容は、森林環境教育の推進を図る「実践・公開講座」、小学校の教職員を対象にした「森の塾」などのイベントや森林技術センターで取り組んでいる「平成21年度技術開

また、森林技術センターの試験地調査では、これまで自身が森林施業技術の勉強や研究してきたことから、多くの質問をするなど関心が高く興味深い実習のようでした。

今回の実習を終え、実習生からは「林野庁を含め、何らかの



クラフト作りをサポートする中間さん

形で林業に関わる職業に就きたい気持ちの方がより強くなった」との感想が寄せられました。このような機会を通じより多くの方が、国有林の業務を理解していただき、職業選択の視野が広がれば幸いだと思います。

（担当Ⅱ指導普及課）



私は、虹の松原に住む大きな大きなクロマツである。四百年も前に、唐津藩主寺沢志摩守によって植えられたんじや。みんなは

大老のマツ

そんな私に異変が起きたのは、去年の秋のことだった。妙に体がだるくなつて、枝が枯れ始めたんじや。みんなが、心配そうに私をみつめてくれたんじや。

多くの人間や私の仲間達が「もっと長

私のことを「大老のマツ」と呼んでいる。ここ虹の松原には私の仲間が百万人（本）も住んでいて、人間の暮らしを守ってき

ある日のこと、そんな私のもとに森林管理署の職員がやってきて、「マツクイムシにやられてたばい。切り倒すしかなか。いやいや、ここまで長生きをして

きたんじや。治療をせんと」と話しているのが聞こえたんじや。結局、私は治療を受けることにしたんじや。私の体に何十本もの薬が注入され、枯れた枝は切つ

（佐賀森林管理署長 富田幸一）



枝打ち作業に挑戦する児童ら＝熊本

枝打ちなどに小学生99人挑戦
【熊本森林管理署】熊本市立金峰山少年自然の家では、「よかよか金峰の森」事業として、集団宿泊教室の中で総合的な学習の一環として、自然環境学習や林業体験学習を取り入れています。今回、熊本市内の松尾東・松尾西・松尾北・小島・中島小学校の5年生99人を対象に、当署も講師を派遣し森林教室を実施。児童らは午前中、保育間伐の作業に挑戦しました。保護員を着用しての慣れない作業に「疲れた」。また、間伐後の林内に日差しが入り込む様子に「明るくなった」などの声が聞かれました。午後は、本立て、丸太切り、ペン立て作りを体験し、木工品の暖かみや森林の大



道路沿線でのゴミ回収作業＝大隅

切さを学びました。
【大隅森林管理署】鹿児島県東串良町にある海岸保安林、通称「柏原海岸林」で、清掃作業を行いました。当日は東串良町と当署から36人が参加し、松林内に散乱する一般家庭ゴミやタイヤ、家電など軽トラック5台分を回収しました。シーズンには多くのキャンパーなどで賑わう行楽地ですが、道路沿線を中心に色んな物が投棄されており、改めて人間のモラルを考えさせられる日となりました。今回、ゴミ回収の取り組みは、ゴミを捨てにくい環境づくりと、「海岸林」の改善につながり、不法投棄防止へのアピールをする良い機会となりました。

実践講座
第2回 公開講座

森林の大切さ学びながら
絵手紙作りに24人参加

7月26日、熊本城の一角にある監物台樹木園みどりの交流館において第2回実践・公開講座「森林の公益的機能を知ろう」（絵手紙）を行いました。
同講座には24人が参加。講師は前回に続き九州インストラクター会の松野親人さんを招き指導をいただきました。

最後に、出来上がった作品を一つ一つ額に入れ、松野さんより講評をいただきました。参加者からは「額に入れると、きれいにみえる」などの声が聞かれ、参加者の皆さんは自らの絵手紙の出来映えに満足されていました。

（担当Ⅱ指導普及課）



絵手紙作りに取り組む参加者ら



森林の役割と地球温暖化問題についての講義を行った後、絵手紙作りに取りかかりました。松野さんから絵手紙を描くときのコツが伝授されると参加者は自信を持った様子で作品作りに取りかかり、夏野菜や花など次々と素敵な作品を仕上げられました。

本州（岩手県以南）、四国、九州に分布しており樹高7〜10メートルになる落葉広葉樹。ぼうがの新芽、新しい枝（幹）がまっ赤になることからお正月の花弁（かき）として使われていたが、昨今は冬でも多くの生花が回るようになりネジキを使った生け花を見ることは少ない。
花は白色の筒形で一列に並んで下向きに咲き、果実を付ける頃は花柄が上向きになり熟す。ツツジ科の筒形の花は花の柄を曲げて果実（そう果）を付けるので、森の観察会では動かない植物の不思議として好評を得て

10月1日～7日 全国労働衛生週間
9月は準備期間

平成21年度全国労働衛生週間が10月1日から7日まで全国一斉に行われます。当局においてもこの趣旨に沿い、積極的な衛生管理の推進を図るため「平成21年度九州森林管理局労働衛生週間実施要領」を定め取り組んでいるところです。

なお、9月は準備期間となっています。各署等においても「平成21年度安全衛生管理実行方針書」の重点項目の一つである『「心とからだの健康」の保持増進』に向けた労働衛生活動の積極的な展開をお願いします。

スローガン
自分の健康 家族の安心
心掛けよう 健康生活

②5 ネジキ（ツツジ科）

いる。果実はほぼ一年中付いており、葉はやや薄く波打っている。ので判別点として役立つ。

案内知られていないのがネジキの有毒樹木であること、アセビと同様山羊、牛、馬の中毒が報告されている。また、薪にするに燃え難い、炭に焼くと、硬く火付きが悪いことからオゾゴロシ、オバナカンなどの方言は面白い。（植物と民俗 倉田悟）
名前は幹がねじれることから付けられ根元になるほどねじれが大きい。樹木園には中央の東側に胸高直径8センチ（二本立ち）、樹高4メートルのネジキが毎年花を咲かせ果実をつけている。



みどりの散歩路
局庁舎玄関前で3メートルほどのチョウに出逢った。「クロマダラソテツジミ」というらしいが、皆さんはご存じだろうか？▼東南アジア原産の亜熱帯性のチョウで、幼虫はソテツの若葉を食すシジミチョウ仲間。この夏は東京都心でも繁殖が確認され、生息域は確実に北上しているようだ。これも地球温暖化の影響なのだろう▼この夏スーパーでは規格外や傷ものの野菜などいわゆるワケあり商品が並んでいる。日照不足による夏野菜の生育不良のため価格高騰に対処したものだ。自然と共生するには少しずつ歯車が狂い始めているように感じる▼新型インフルエンザも気にかかる。水際での対策に始まり、いまでは重篤化を防ぐための対策へと変わった▼厚生労働省によれば、今月下旬から来月上旬がピークとなり1日76万人が発症すると試算しているが、変異しないことを願わずにはいられない▼9月期は労働衛生週間の準備月間だ。手洗いとうがいを実践に行い。規則正しい生活と食事、充分な睡眠と。身近なところから予防に取り組みたい（晴）